

天草下島の西北端に位置し西は天草灘（東支那海）を臨み、北は千々岩灘をへだてて長崎県野母半島や雲仙岳に相對し、年間平均気温十七度の温暖な気候に恵まれ、その昔切利丹殉教の悲史を秘め、海は藍より青く、風光明媚と人情味豊かな町、これが苓北町である。

昭和三十年一月一日坂瀬川村、志岐村、富岡町が合併し、苓北町として発足、越えて昭和三十一年九月三十日都呂々村を加えて天草北部の産業文化の中心として今日に至っている。

産業は、農業、水産業の振興に全力を投入。農業面では、自立農家を育成するための施策として、かんがい用水の確保と共に農用地の基盤整備、山林原野の農用地への転換による農家の規模拡大を進めるため、昭和四十一年度より第一次農業構造改善事業及び開拓パイロット事業により、集団みかん園七十二haを開園、早生温州の団地を造成した。昭和四十八年には志岐地区の農業用水確保のための志岐ダムが完成。この事業に呼応して、同地区は、昭和四十五年より第二次農業構造改善に取り組み、は場整備水田九五・四三ha、畑四十一・七二ha、みかん園造成一九・四ha、桑園造成十二ha、これらに伴うかんがい用水のための配管を施設した。近代化施設としては、農業構造改善センター、ライスセンター、野菜集荷所の設置を昭和四十八年度に完了し、更に昭和五十一年度より年柄地区に

みかん選果場を建設した。来年度から甘なつ団地一〇ha、和牛生産団地一〇haを計画し事業を進めている。以上の事業完了により農業の様相は一変し、その発展は目をみはるものがある。特に柑橘、蔬菜類は関西、関東の市場に大量に出荷され、とりわけ早生温州みかん（青切）はここ数年間東京中央市場において日本一の高値を続け、その高品質に人気を得て東京新宿果実販売店の店頭の一画を占

より苓北町を起点とし、隣町五和町を経由し本渡市に至る大型農道を県事業として着工、五十三年度完成予定である。完成のあかつきには農水産物の輸送のための所要時間が大幅に短縮され、その効果が期待されている。

水産業は、三方を海に接しているため条件的に恵まれ、漁港も六港に及びそれぞれ整備がなされるに従い、漁船の数も昭和四十年に三九四隻であったものが、

内にあって、富岡周辺海域は、全国初の海中公園の指定を受け、地域内の富岡城跡、富岡吉利支丹供養碑（国の指定史跡）など多くの史蹟があり観光の拠点として一躍クローズアップされている。

日中間実務協定第一号として実現された日中間海底ケーブルの日本側陸揚地は本町であり苓北中継所施設も見事に完成し、既に去る十月二十五日から開通している。近代機器による国際通信は四百八十回線の容量を有し日中間のみならず、諸外国との交信をも、はなははしく開か

め、苓北みかんの名声を高くしている。蔬菜にあつては、レタス、夏秋きゅうりが国の指定をうけ、その作付面積生産量とも天草郡ではトップを占めている。

又、畜産（生産牛、乳牛）養蚕についても、その生産額は、天草郡において上位に位置するまでにいたった。これらの農産物の輸送については、現在富岡本渡線の県道に依存しているが、中員が狭く交通の渋滞を来しているためこれを解消し市場性を高めるため昭和四十八年度

往年隆盛を極めた祭事も、近年また復興のきざしがみられ、伝統を誇る上津深江八坂神社の裸まつり、志岐の太鼓踊り、富岡の初午など盛んとなっている。

町内には、仏木坂古戦場など史蹟も多く、また古より多くの文人、墨客、武人、学者が足跡をのこし、この地を礼賛することしきりであった。因に頼山陽、勝海舟、林美英子などが宿を求めた。

本町の社会福祉施設は町立養護老人ホーム、社会福祉法人による身障者授産施設、重度心身障害児施設があり福祉の町としても充実しつつある。

わが町は、躍進し雄飛する町である。

- 面積 六六・五一ha
 - 人口 一一、四四六人
 - 町木 つばき（椿）
 - 町花 ハマユウ（浜木綿）
- （苓北町）



▲ 拡張される富岡漁港。



▲ 大寒の海を渡る上津深江八坂神社の裸まつり。



富岡の初午祭のだしもの蛇踊り▶



▲ 伝統民芸しめ縄作り。



▲ 満々と水をたたえる志岐ダム。